

読書ノート

六月下旬、やっと雨が降り、今治も松山もカムは満杯に。平成6年の異常渇水のつらさを思うと、ふたんから水や電気を大切に使用したいと、身にしみています。カエルの声が一晩中...

● 流れる 幸田文 新潮社  
 今まで触れたことのない日本語が次山出てきて、読み切れるのだろうかと不安になった。昭和30年頃、芸伎の置屋を舞台に、そこで交わされる日常会話のなんと適切で豊かな「言葉」の数々。人の気持ちや「マゴ」をこんなにも微細な表現のことばで話していたら、人間関係も緊密になるだろう。今は会話の成り立たないわずかな言葉の持ち合わせで、父露伴から壮絶というほど厳しく家事を仕込まれた人の文章は人としての確かなバックボーンがあると思った。

● 鎮守の森 宮脇昭 新潮文庫  
 植物学の世界的権威者である著者は多くの森作りの実績をあげている。その土地本来の森であれば「火事にも地震にも台風にも耐えて生き延びる。今からでも遅くない。新たに森を作るべきだ」と著者は主張しつづけている。シノキ、カシノキ、ヤブツバキ、モクシロタモ、アウカシ……。阪神大震災後も森の力が証明されている。酒田市では「タブノキ一本消防車一台」のかけ声で森を作っているそうだ。気がつけば「日本中から鎮守の森が消えていた。生きる基盤、文化、心、魂のふるさととしての森づくり、まわりを見てみよう！」

じゃがいものみそ炒め あいしば ほんとうセツピ  
 日本料理 野崎洋光さんの「忘れられない味」 どうぞ！  
 (4~5人分) おやつにも、常備菜にも  
 じゃがいも(小/新じゃがなど) 500g

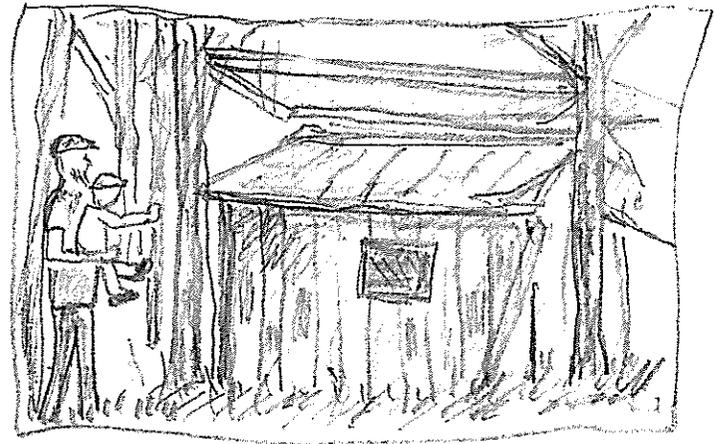
A) みそ 100g } 混ぜておく  
 さとう 30g } やわらかくゆでる。  
 おろしにんにく 1かけ

B) 青じそ 10枚(粗くきる) ② フライパンに油を熱し  
 ねぎ 1本(みじん切り) } じゃがいもを入れ、表面に  
 サラダ油大 1 } 照りが出たらB)を入れ  
 炒める

③ A)を加えていもにからめる

GORI作の "きたあかつ"の"いも"で 小粒の新じゃがふいふい〜

MAJA (子どもの秘密基地) フォトエッセイ



カマのブログにこんな写真が載ってました。6月初め、タパニの実家のサマーハウスへ行ったとき、カマで湖の対岸に渡ると、20年以上前にタパニとイトコのユウカ少年が作った秘密基地が残っていたそう。中学生と小学生くらい？ いいなあ〜

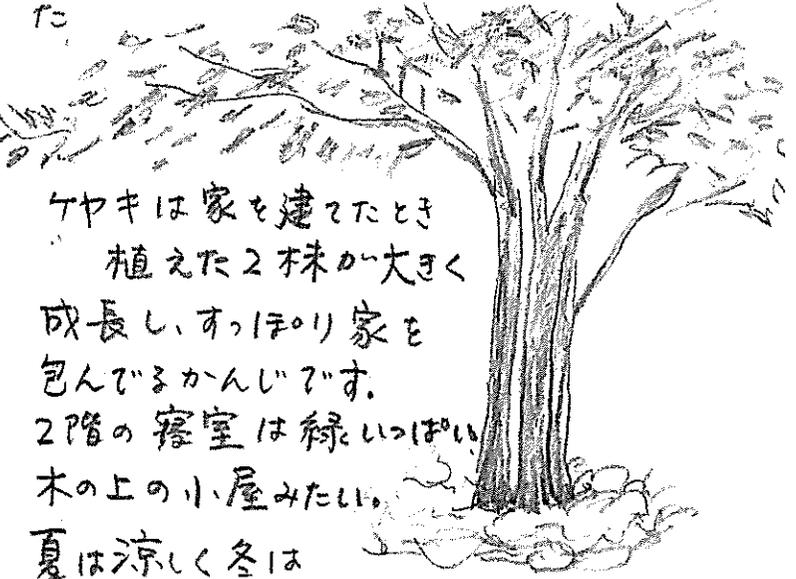
20年くらい前から GORIさんはセカンドハウスが谷をいと言ってる。別荘でなく小屋でいいらしいけど、夢は夢でいいんじゃない？

フン KAYO  
 GEORI

けやき通信 2013年6月 No.240

— 錦織 佳代子 —

庭のクスノキはマヤが生まれたとき、小鳥が種を運んできて、芽を萌えたのです。何かのせいの芽かなと水をやっていたら、どんどん大きくなり、木になりました。



ケヤキは家を建てたとき植えた2株が大きく成長し、おかげで家を包んでくれています。2階の寝室は緑いっぱい木の上の小屋みたい。夏は涼しく冬はあたたか。小さな小さな庭であることを忘れさせてくれます。

春、包いのいい白い花を咲かせるライラックもあります。サシヨウの木、これモ小鳥が持ってきた木。名葉を料理に使えてうれしい贈り物です。

ハート型の葉がかわいい